

目指す学校像	「明るい笑顔があふれる」「家庭、地域社会から信頼される」「安全で安心な環境で学べる」我が子を通わせたい学校をつくる
--------	---

重点目標	1 学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善 2 学校を核とした持続可能なスクール・コミュニティ構築 3 生徒と教職員との豊かな人間関係に支えられた生徒指導・教育相談の充実 4 明るく活気のある学校を目指した教職員の育成と働き方改革の推進
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価								学校運営協議会による評価		
年度目標				年度評価				実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等		
1	(現状) ○市の学習状況調査において、学習に対する関心・意欲・態度に肯定的な回答をした児童の割合は市の平均と同じくらいであるが、国語・算数ともに全国・市の平均には及ばない結果となっている。 ○日頃の学習の様子から、興味のあることに関しては、意欲的に取り組む児童が多い。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果から、読解力や基礎学力の定着に課題が見られる。 ○意欲をもって学習に取り組めるように、学びの自律や探究化を図る授業構想の研究を深める。	学びの自律化に向けた情報機器の活用と授業改善 学ぶ楽しさを実感できる「神田小 STEAMS TIME」の創出	①研修主任・学力向上主任と授業の流れ・ICTの活用等を明記した「神田小の授業づくり」を作成する。 ②校内研修で、国語、算数を中心とした授業研究を行い、基礎学力の向上、ICTの効果的な活用方法等の研究授業を実施する。	①「神田小の授業づくり」をもとに、教員が自分の授業を見直し、ねらいを明確にしたり、見直しをもって学習に取組ませたりすることができたか。 ②国語、算数の研究授業を年に4回以上行い、研究協議会を実施し、研修を深められたか。	①「神田小 STEAMS TIME」をSDGs等と関連付けた神田小独自の探究的な学びや教科横断的な単元の創出し、児童に学ぶ楽しさを実感させる。	①児童アンケートにおいて「自分で課題を立て情報を整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいますか」の肯定的な割合が85%以上になったか。				
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査で「友だちと協力するのは楽しいと思いますか。」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国・市の平均を大きく上回った。 ○学校評価の「施設・設備」に係る質問に対する肯定的な回答の割合は89%である。 (課題) ○児童一人ひとりに寄り添い、適切なタイミングで組織的に支援していく体制づくりが必要である。 ○施設・設備の老朽化に伴う、雨漏りや壁面の修理等に早急な対応が必要である。	児童1人ひとりにとっての「Well Being」な学校づくり 施設管理の徹底による、安全で衛生的な学習環境の充実	①全教職員参加の「すこやか委員会」を月に1回実施し、児童一人ひとりに寄り添う組織的な対応を常にできるようにする。 ②学期ごとに実施するアンケートにおいて児童の実態把握や心のケアをできるようにする。	①学校評価に係る教職員アンケートの生徒指導・教育相談の項目で肯定的な割合が80%以上になったか。 ②学校評価に係る児童・保護者アンケートの生徒指導・教育相談の項目で肯定的な割合が80%以上になったか。	①安全点検を確実に行うとともに、事故を未然に防げるように、教職員の危機意識の向上に努める。	①安全点検を毎月実施するとともに、ケガの発生状況等を保護者や教職員にも保健だよりや職員集会等で周知し、危機意識を向上させられたか。				
3	(現状) ○神田小学校学校運営協議会で目指す児童の姿について共有し、学びの自律化に向けた情報端末の活用、自ら課題を見付け、協働して解決していく児童を地域全体で育てていく。 (課題) ○目指す児童の姿を家庭・地域・企業等に広め、地域に住み、地域に集う全ての方々と共有できるようにする。児童に育てたい力について熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けて取り組む。	目指す児童の姿を地域全体で共有するためのHPの活用・教育活動公開 児童の自律につながるコミュニティスクールプランの策定	①月に1回以上学校HPの更新、学校だよりや安心メールによる保護者・地域への情報提供をする。 ②コロナ禍における学校行事等について、オンラインで参観できるようにし、学校の教育活動や児童の成長に対する関心を高める。	①月に1回以上学校HPを更新し、児童の様子や学校の出来事等を保護者や地域の方に迅速に情報提供することができたか。 ②学校評価において、開かれた学校づくりに関する項目で肯定的な割合が80%以上になったか。	①地域を題材とした学習活動や、SSN、地域の企業等と協働した取組みを計画し、2学年以上で実施できたか。					
4	(現状) ○新たな学びのスタイルとなるICTを活用した授業展開等についてエバンジェリストが中心となり研修を重ねている。 (課題) ○学校評価では、学校が子どもの悩みやトラブルに適切に対応していると評価している保護者は76%となっており、早急な改善が必要である。 ○教職員の生徒指導や保護者対応に対する迅速かつ正確な情報共有と組織的な対応力の育成を図る。	教職員1人ひとりが自分のもつ力を発揮し、すべては神田の子の希望をはぐくむために努力できる組織づくり	①キャリアステージに応じた教材研究・業務改善について助言するため、教務主任・学力向上主任を中心とした組織で、ICTを活用した授業方法の研究や授業相談会を実施する。 ②子どもの悩みやトラブル等に基づき、迅速に適切に対応できる教職員を育成できるよう、生徒指導研修を積極的に行う。	①全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常の授業でICTを活用する状況になったか。 ②全ての教員が、生徒指導研修に参加し、子どもの悩みやトラブルに基づき、迅速に適切に対応する方法等を研修会で学ぶことができたか。 ③教職員アンケートで、授業改善への取組についての肯定的な回答が85%以上になったか。						

